

令和 5年度 地域発元気づくり支援金事業総括書

事業名	持続可能な宿泊施設づくりへの地域一体事業
事業主体 (連絡先)	白馬村宿泊イノベーションチーム (090-7511-0213)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	918,405 円 (うち支援金: 595,000 円)

事業内容

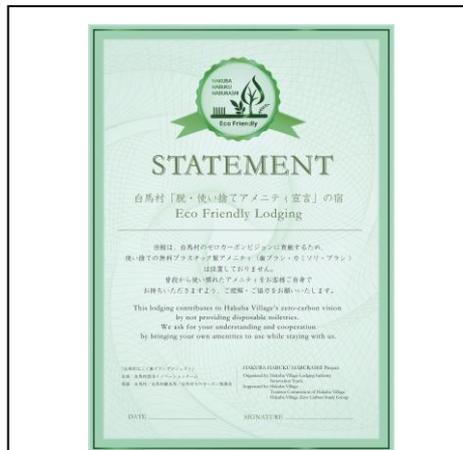
■白馬ブランドアメニティ開発

サーキュラーエコノミーの観点より、各宿泊施設で提供するシャンプー等のバスアメニティを白馬の未利用資源(廃棄されている農作物)を原料としたシャンプー等のバスアメニティ開発を目標に今年度は未利用資源の選定、原料開発を行いました。

白馬の農作物である「食用ほおずき」「米ぬか」「ブルーベリー」「ルバーブ」の中から、白馬らしさを重視して「食用ほおずき」を選定し、バスアメニティの原料となるエキス開発を行いました。

■宿泊施設の脱プラスチックアメニティ推進

白馬村が掲げているゼロカーボン宣言の中で宿泊業ができることの第一歩として、歯ブラシやひげそりなどの使い捨てプラスチックアメニティをお客様自身に持参してもらうことに賛同してもらう宿泊施設を勉強会やシンポジウムの開催により募りました。



脱プラスチックアメニティ宣言の宿41施設で掲示しているステートメント

- ① 白馬らしい宿づくり (宿泊業と農業の連携)
- ② 持続可能な宿泊業
- ③ 事業者同士の面的つながり

事業効果

- ① 農業から出る未利用資源から宿泊業で提供するオリジナルアメニティを開発することにより、白馬の二大産業である宿泊業と農業の連携が図れています。もともと農業から発展した白馬の民宿発祥文化にも結び付いています。
- ② 環境的持続可能な宿づくりへの取組である脱プラスチックアメニティ宣言への参画施設は36施設(令和6年3月現在)となっています。また今年度白馬村が採択された観光庁「持続可能な観光地域モデル事業」において、白馬村宿泊イノベーションチームの活動に評価をいただいています。
- ③ 宿泊施設事業者同士によるミーティングを月1回行い、また勉強会を2回、白馬村宿泊シンポジウムも行い、延べ220名の宿泊事業者が今後の白馬村の宿泊業について考えました。勉強会やシンポジウムを通じて、白馬村宿泊イノベーションチームのメンバーも当初の10名から現

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・支援金を活用して実施したオリジナルアメニティ原料開発は予定通り実施できました
- ・脱プラスチックアメニティ宣言への参画施設について目標100軒を目指していましたが、現時点で36施設です
- ・白馬村宿泊イノベーションチームメンバーの参画目標人数を20名としていましたが、29名まで増えました

在29名(令和6年3月現在)まで増えました。

今後の取り組み

- ① 次年度は白馬の未利用資源から開発するブランドアメニティの製品化を進めていきます。この製品を各宿泊施設で利用してもらうことで、農業・宿泊業ともに一体となった地域の取り組みであることをアピールして、白馬のブランド向上を図ります。安定した製品提供を行うために、お土産などの物販への発展を目指します。この取り組みへの賛同からサステナブルトラベルとして観光客が白馬の地を選んでもらうことにもつながることを目指します。
 - ② 持続可能な宿泊業について、これまでは環境的な視点からの取組が多かったのですが、後継者不足や生産性向上など経営的にも持続可能を目指せる宿泊業に向けて、白馬商工会と連携して勉強会を開催します。また脱プラスチックアメニティ宣言の宿への加盟はあらためて100軒の加盟を目指します。
 - ③ 「白馬らしい宿づくり」「持続可能な宿泊施設」をテーマに、村内宿泊施設事業者を対象とした勉強会やシンポジウムを定期的で開催し、宿泊産業について皆で考え、企画し、アクションする体制を目指します。また白馬村内に限らず、他観光地との情報交換も行い、全国事例も共有することで活性化を図ります。
- ※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある